

OXIDE

株式会社オキサイド

2025年2月期第3四半期 決算補足説明資料

(6521 東証グロース)

2025年1月14日

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

決算補足説明資料に基づいて、ご説明させていただきます。

- 01 2025年2月期 第3四半期決算 連結業績
- 02 事業別業績 半導体・ヘルスケア・新領域
- 03 Raicol社“のれん”減損
- 04 2025年2月期 通期業績予想の下方修正
- 05 行使価額修正条項付第8回新株予約権の取得及び消却
- 06 投資家の皆様へのメッセージ

こちらが本日のアジェンダとなっております。

2025年2月期 第3四半期実績

OXIDE

- 売上高は、23億2,200万円となりました。（予想対比1億2,300万円減、前年同期比9億5,200万円増収）
- 営業利益は、3,900万円となりました。（予想対比1億5,900万円減、前年同期比5億8,000万円増益）

(百万円)	FY25/2月期 1Q			FY25/2月期 2Q			FY25/2月期 3Q			FY25/2月期 3Q累計		
	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減
売上高	1,514	1,388	▲ 126	1,968	2,010	42	2,446	2,322	▲ 123	5,929	5,721	▲ 207
営業利益	▲ 270	▲ 406	▲ 135	8	9	1	199	39	▲ 159	▲ 63	▲ 356	▲ 293
(営業利益率)	▲17.8%	▲29.3%	-	0.4%	0.5%	-	8.1%	1.7%	-	▲1.1%	▲6.2%	-
研究開発費	354	315	▲ 38	363	311	▲ 52	376	365	▲ 10	1,094	992	▲ 101
EBITDA※	▲ 16	▲ 144	▲ 128	268	280	12	467	309	▲ 157	719	446	▲ 272
(EBITDAマージン※)	▲1.1%	▲10.4%	-	13.6%	14.0%	-	19.1%	13.3%	-	12.1%	7.8%	-

※ EBITDA：営業利益に償却費（減価償却費・のれん償却等を含む）を加えた数値

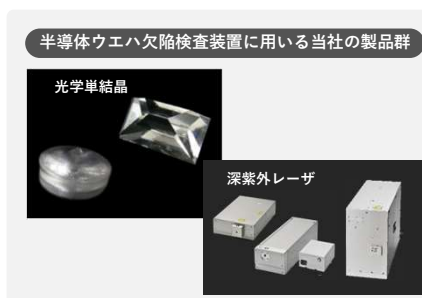
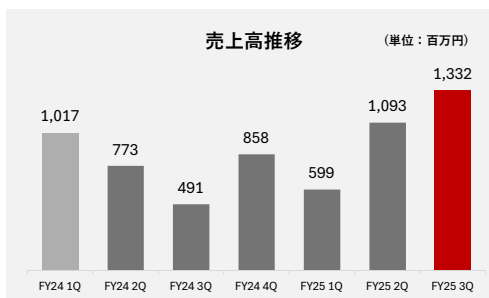
それではまず初めに第3四半期の決算概要についてご説明いたします。

売上高は、予想24億4,600万円対比1億2,300万円減の23億2,200万円となりました。前年同期比では、9億5,200万円の増収となりました。

営業利益は、予想1億9,900万円対比1億5,900万円減の3,900万円となりました。前年同期比では、5億8,000万円の増益となりました。

- 半導体事業の売上高は、予想12億5,100万円対比8,000万円増の13億3,200万円で四半期では過去最高となりました。
- 前年同期比では8億4,100万円増収となりました。

(百万円)	FY25/2月期 1Q			FY25/2月期 2Q			FY25/2月期 3Q			FY25/2月期 3Q累計		
	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減
売上高	749	599	▲ 149	1,131	1,093	▲ 37	1,251	1,332	80	3,131	3,025	▲ 106

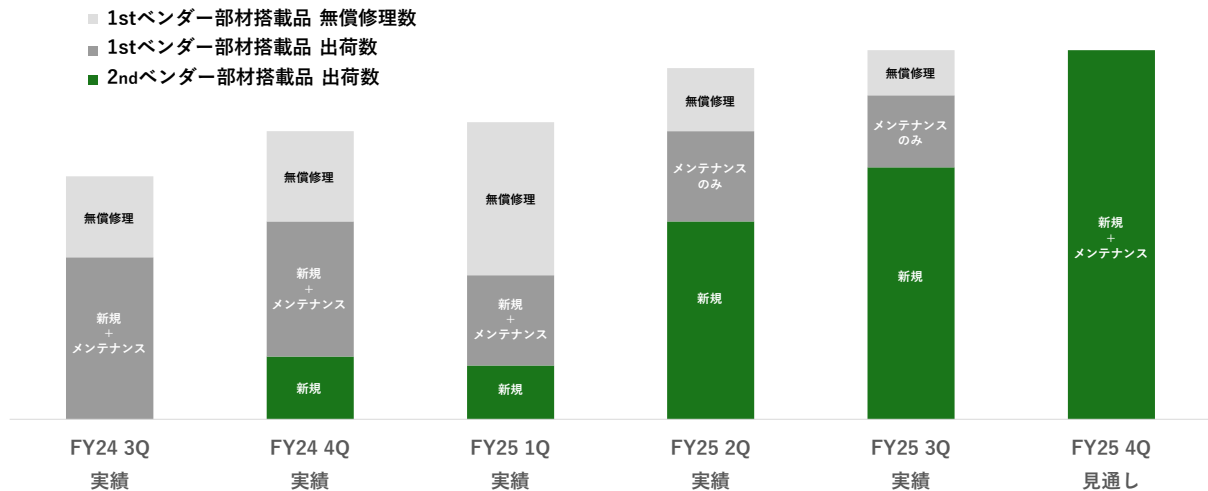


続いて、事業別実績をご説明いたします。まずは半導体事業です。

第3四半期の売上高は、予想12億5,100万円対比8,000万円増の13億3,200万円で四半期では過去最高となりました。

また、前年同期比では8億4,100万円増収となりました。

- 部材問題は完全に解決しました。セカンドベンダー部材の歩留まりは100%を継続しております。
- セカンドベンダーへの部材の切り替えは順調に進み、主要顧客での認証が完了しました。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

5

レーザ製品の出荷内訳の推移についてご説明いたします。

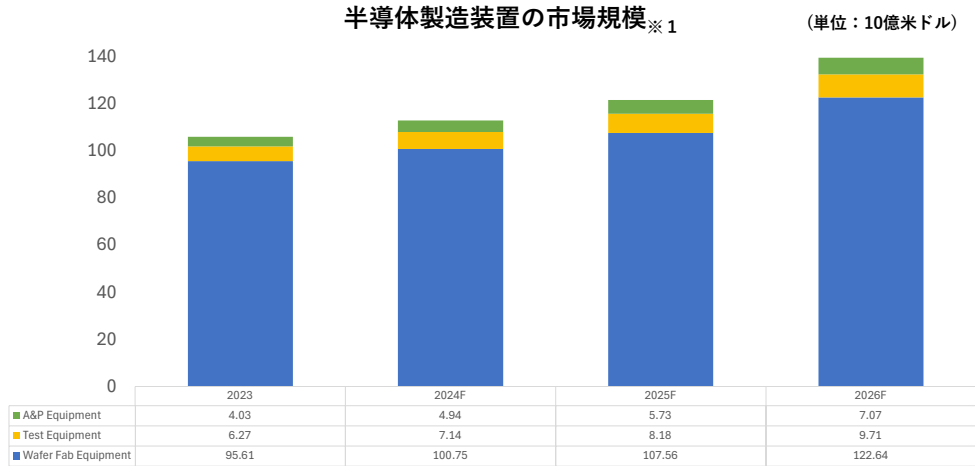
レーザ製品の部材問題は完全に解決いたしました。セカンドベンダー部材の歩留まりは100%を継続しております。

セカンドベンダーへの部材の切り替えは順調に進み、主要顧客での認証が完了しました。

第2四半期以降、第3四半期も新規レーザ製品はすべてセカンドベンダー部材を使用しております。

第3四半期においては、無償修理およびメンテナンス対応分に限り、ファーストベンダー部材が一部含まれておりましたが、第4四半期は新規製品だけでなく、メンテナンス対応分もすべてセカンドベンダー部材に切り替わる見通しです。

- 2024年12月にSEMIより半導体検査装置市場の予想数値がアップデートされました。
依然として、市場は成長傾向にあります。

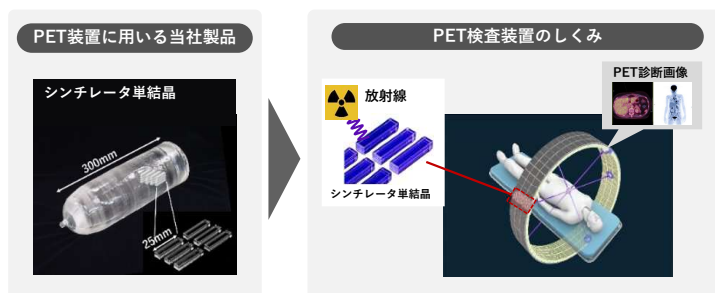
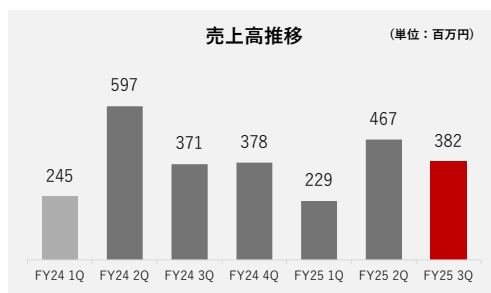


次に半導体製造装置のマクロ環境についてご説明いたします。

2024年12月にSEMIより半導体検査装置市場の予想数値がアップデートされました。依然として、市場は成長傾向にあります。

- がん診断PET装置向けで新規大手顧客から正式採用認定を獲得しました。
- 第3四半期の売上高は予想5億7,100万円対比1億8,900万円減の3億8,200万円となりましたが、第3四半期までの累計では予想を上回りました。
- 将来需要が期待される脳PET装置向けも継続的に引き合いがあります。

(百万円)	FY25/2月期 1Q			FY25/2月期 2Q			FY25/2月期 3Q			FY25/2月期 3Q累計		
	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減
売上高	188	229	41	257	467	210	571	382	▲189	1,017	1,078	61



続いて、ヘルスケア事業についてご説明いたします。

ヘルスケア事業では、がん診断PET装置向けで新規大手顧客から正式採用認定を獲得しました。第3四半期の売上高は予想5億7,100万円対比1億8,900万円減の3億8,200万円となりましたが、第3四半期までの累計では予想を上回りました。

将来需要が期待される脳PET装置向けも継続的に引き合いがあります。

■ 新規顧客獲得の要因を「育成技術」、「量産技術」、「サプライチェーン」の観点から分析しております。



当社のシンチレータ単結晶インゴット

1

高性能・高品質なシンチレータ素子で
PET装置の高解像度化に貢献

育成技術

2

世界最大サイズの単結晶インゴットで
コスト競争力の実現

量産技術

3

日本製で地政学リスクの低減に貢献

サプライ
チェーン

続いて、新規顧客の獲得に成功した要因をご説明いたします。

1つ目に高性能・高品質なシンチレータ素子でPET装置の高解像度化に貢献できることです。

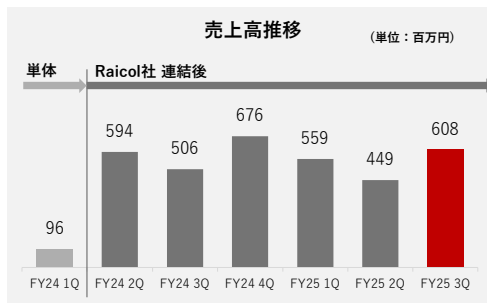
2つ目に世界最大サイズの単結晶インゴットで高いコスト競争力を実現したことです。

3つ目にMade in Japanで地政学リスクの低減に貢献できることです。

今後も、当社シンチレータ製品の強みを生かし、新規顧客や新用途の開拓を積極的に行ってまいります。

- 新領域事業の売上高は、予想6億2,300万円対比1,400万円減の6億800万円となりました。
- オキサイド単体の売上高はデータセンター向け新規案件獲得により予想対比増収となりましたが、一方でRaicol社単体の売上高はイスラエル紛争長期化の影響により予想対比減収となりました。

(百万円)	FY25/2月期 1Q			FY25/2月期 2Q			FY25/2月期 3Q			FY25/2月期 3Q累計		
	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減	予想	実績	増減
売上高	577	559	▲ 18	579	449	▲ 130	623	608	▲ 14	1,780	1,617	▲ 163



次に、新領域事業についてご説明いたします。

第3四半期の売上高は、予想6億2,300万円対比1,400万円減の6億800万円となりました。

オキサイド単体の売上高はデータセンター向け新規案件獲得により予想対比増収となりましたが、一方でRaicol社単体の売上高はイスラエル紛争長期化の影響により予想対比減収となりました。



先端光計測

深紫外レーザー

半導体回路パターン検査装置応用

- 東京大学物性研究所は、レーザー光電子顕微鏡と呼ばれる新しい電子顕微鏡を開発しました。本開発には当社のレーザーが使用されています。
- 半導体検査装置メーカーとの実用化に向けた共同研究が発表されました。
- 半導体プロセスの回路パターン検査の1,000倍以上の高速化が可能なため将来大きな需要が期待されています。

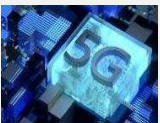


パワー半導体

SiC・酸化ガリウム

電力インフラ・EV・家電応用

- 子会社オキサイドパワークリスタル社を設立し、オキサイドのSiC事業を移管しました。
- SEMICON Japanで溶液法SiCウエハと酸化ガリウムウエハを展示しました。
- 急成長する次世代パワー半導体市場への参入を目指します。



光部品

ファラデー回転子

生成AI・データセンター応用

- 独自の単結晶コア技術をもとに、ファラデー回転子と呼ばれる光の偏光方向を回転させる特性を持つ単結晶素子の製品を販売開始しました。
- 生成AIやクラウドサービス普及に伴うモバイルデータ通信量の増大や、各国でのデータセンターの急増を背景に需要が拡大しています。



量子

量子もつれ光源用モジュール

量子暗号通信・量子センシング応用

- 結晶・デバイスからモジュールへと高付加価値の製品開発を進めています。
- 量子もつれ光子対を高効率に生成するモジュールの作製に成功しました。
- 実用性の高いシステム実証実験用製品として販売を開始しました。

第3四半期では、主に先端光計測、パワー半導体、光部品、量子、4つの研究テーマで進展がございました。

先端光計測分野では、深紫外レーザーの半導体回路パターン検査装置への応用、

パワー半導体分野では、SiC・酸化ガリウムの電力インフラ・EV・家電への応用、

光部品分野では、ファラデー回転子の生成AI・データセンターへの応用、

量子分野では、量子もつれ光源用モジュールの量子暗号通信・量子センシングへの応用において進展がございました。

当社はこれらの成果を基盤に、成長市場への参入と新たな価値創出を目指してまいります。

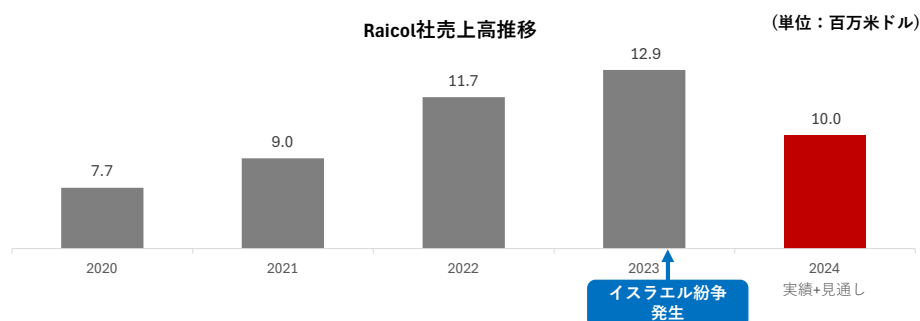
Raicol社“のれん”減損

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

続いて、Raicol社“のれん”の減損についてご説明いたします。

Raicol社“のれん”減損の背景と今後の方針

- 2023年3月に買収したRaicol社“のれん”全額に相当する27億1,500万円を減損します。減損の要因は、Raicol社買収時点で想定していた事業計画と実績との間に乖離が生じたためです。
- 乖離の主な原因は、イスラエル紛争以降、一部の顧客からの受注が低迷、イスラエルと一部の周辺国との貿易制限の発生、そして一部顧客におけるイスラエル製品に対するサプライチェーン懸念の高まりを受けた製品切替等です。
- イスラエル紛争による不透明感が拭えないため、Raicol社の今後の成長に関しては買収時より保守的に見込みます。
- Raicol社の技術やノウハウは依然として当社グループ全体の価値向上に寄与するものであり、買収時に掲げた事業領域（量子、宇宙・防衛、半導体）の拡張とクロスセルの強化という戦略方針に変更ありません。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

12

2023年3月に買収したRaicol社“のれん”全額に相当する27億1,500万円を減損します。

減損の要因は、Raicol社買収時点で想定していた事業計画と実績との間に乖離が発生したためです。

乖離の主な原因は、イスラエル紛争以降、一部の顧客からの受注が低迷、イスラエルと一部の周辺国との貿易制限の発生、そして一部顧客におけるイスラエル製品に対するサプライチェーン懸念の高まりを受けた製品切替等です。

イスラエル紛争による不透明感が拭えないため、Raicol社の今後の成長に関しては買収時より保守的に見込みます。

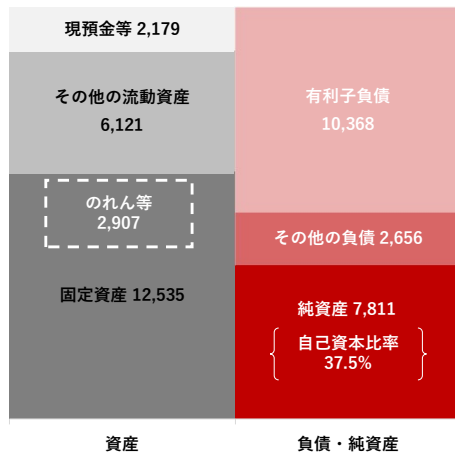
Raicol社の技術やノウハウは依然として当社グループ全体の価値向上に寄与するものであり、買収時に掲げた「量子」、「宇宙・防衛」、「半導体」領域の事業の拡張とクロスセルの強化という戦略方針に変更ありません。

Raicol社“のれん”減損の影響

- 減損後の今期第3四半期末時点での純資産合計額は50億300万円となり、自己資本比率は28.3%となります。
- 次年度以降の“のれん”償却費は年間で約2億7,000万円（現時点の予測値）減少いたします。

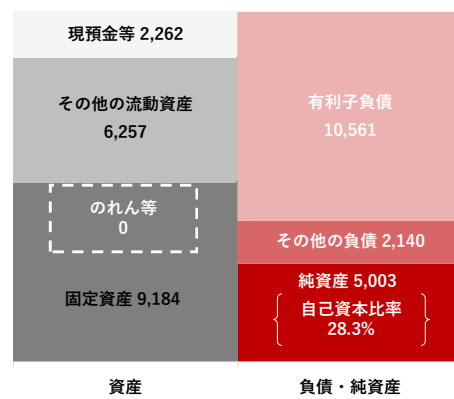
2024年8月末 BS

(単位：百万円)



2024年11月末 BS (減損後)

(単位：百万円)



減損の影響ですが、減損後の今期第3四半期末時点での純資産合計額は50億300万円となり、自己資本比率は28.3%となります。

なお、次年度以降の“のれん”償却費は年間で約2億7,000万円減少いたします。こちらは、現時点での予測値です。

2025年2月期 通期業績予想の下方修正

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

続いて、通期業績予想の下方修正についてご説明いたします。

通期業績予想の下方修正

- 2025年2月期の通期業績予想を次のとおり修正いたします。

売上高・営業利益：オキサイド単体では予想を上回りますが、Raicol社の状況が影響し、連結で減収減益となります。

経常利益：通期では為替差益を見込み、減益幅は営業利益に比べて圧縮されます。

純利益：Raicol社“のれん”減損、半導体事業の不具合部材(ファーストベンダー部材)評価減を特別損失として計上することに伴う減益となります。

なお、半導体事業の不具合部材問題は、セカンドベンダーへの切り替えにより現在は解決しております。

(百万円)	FY25/2月期 通期予想		
	修正前	修正後	増減
売上高	8,553	8,300	▲ 253
営業利益	202	0	▲ 202
経常利益	129	50	▲ 79
当期純利益	16	▲ 2,850	▲ 2,866
EBITDA ※	1,259	1,000	▲ 259

※ EBITDA：営業利益に償却費（減価償却費・のれん償却等を含む）を加えた数値

2025年2月期の通期業績予想を下方修正いたします。

売上高・営業利益につきましては、オキサイド単体では予想を上回りますが、Raicol社の状況が影響し、連結で減収減益となります。

経常利益につきましては、通期では為替差益を見込み、減益幅は営業利益に比べて圧縮されます。

純利益につきましては、Raicol社“のれん”減損、半導体事業の不具合部材であるファーストベンダー部材の評価減を特別損失として計上することに伴う減益となります。

なお、半導体事業の不具合部材問題は、セカンドベンダーへの切り替えにより現在は解決しております。

財務コベナンツ

OXIDE

- 当社の借入金のうち、52億4,500万円について、今回のRaicol社“のれん”減損によりコベナンツに抵触する見通しです。
- コベナンツに抵触する取引銀行には事前報告を行っております。

2024年11月末 BS

(単位：百万円)

現預金等 2,262	有利子負債 10,561 { 短期借入金：2,900 長期借入金：7,507 }
その他の流動資産 6,257	
固定資産 9,184	その他の負債 2,140
資産	負債・純資産 純資産 5,003

短期借入金

短期借入金残高（2,900百万円）のうち、コミットメントライン契約に基づく短期借入金残高（2,100百万円）が財務コベナンツに抵触する見通しです。

長期借入金

長期借入金残高（7,507百万円）のうち、シンジケートローン等長期借入金残高（3,145百万円）が財務コベナンツに抵触する見通しです。

金融機関への事前報告及び要請

- 短期借入金については、取引銀行に既存のコミットメントライン等の維持を要請中です。
- 長期借入金についても、取引銀行に対して今後のキャッシュフローで現行の通常返済(年間約11億円)は可能である旨を説明し、ご理解をいただいております。

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. (注)有利子負債にはリース債務を含めておりません。

16

当社の借入金の内52億4,500万円について、今回のRaicol社“のれん”減損によりコベナンツに抵触する見通しです。

コベナンツに抵触する取引銀行には事前報告を行っております。

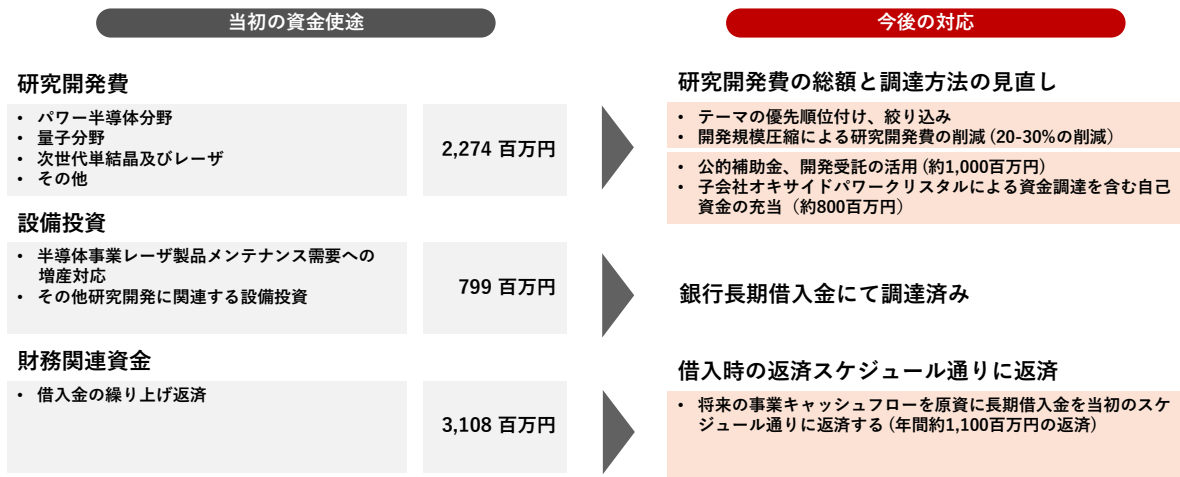
行使価額修正条項付第8回新株予約権の取得及び消却

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

続いて、行使価額修正条項付第8回新株予約権の取得及び消却についてご説明いたします。

行使価額修正条項付第8回新株予約権の取得及び消却

- Raicol社“のれん”減損、今期通期業績の下方修正を踏まえて今後の経営方針を慎重に検討した結果、2024年8月に発行した行使価額修正条項付第8回新株予約権を取得及び消却することを決定しました。
- 消却により当初の資金使途を見直しました。今後の対応は以下のとおりです。



Raicol社“のれん”減損、今期通期業績の下方修正を踏まえて今後の経営方針を慎重に検討した結果、2024年8月に発行した第三者割当による行使価額修正条項付第8回新株予約権を取得及び消却することを決定しました。

消却により当初の資金使途を見直しました。今後の対応は次のとおりです。

研究開発資金については、テーマ毎に優先順位を付け、絞り込むことで総額を削減しながら、公的補助金・開発受託を活用するとともに子会社オキサイドパワークリスタルによる資金調達を含む自己資金の充当をすることで対応してまいります。

設備投資資金については、銀行からの長期借入金で調達を済ませております。

財務関連資金、借入金の繰り上げ返済については、将来の事業キャッシュフローを原資に、長期借入金を当初のスケジュール通りに返済してまいります。

投資家の皆様へのメッセージ

OXIDE

- 当社グループは、収益構造の強化を通して財務の健全性を維持・改善しながら、更なる成長を目指し、事業運営に邁進いたします。
- 当社グループのコア技術である単結晶技術と波長変換技術は、半導体及びヘルスケア領域で事業化され、当社のこれまでの成長を牽引してまいりました。今後、新領域事業で注力している「先端光計測」、「パワー半導体」、「光部品」及び「量子」分野での事業化を目指します。
- 研究開発費及び設備投資の基本方針を見直すことで収益構造を強化してまいります。研究開発費については、優先順位を明確にし、絞り込みを行います。設備投資については、過去数年間にわたる大型の設備投資計画が一段落し、総額圧縮が可能になる見通しです。
- 来期以降の取り組みについては、2025年4月の通期決算発表時にご説明させていただきます。株主の皆様には引き続き当社グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、収益構造の強化を通して財務の健全性を維持・改善しながら、更なる成長を目指し、事業運営に邁進いたします。

当社グループのコア技術である単結晶技術と波長変換技術は、半導体及びヘルスケア領域で事業化され、当社のこれまでの成長を牽引してまいりました。今後、新領域事業で注力している「先端光計測」、「パワー半導体」、「光部品」及び「量子」分野での事業化を目指します。

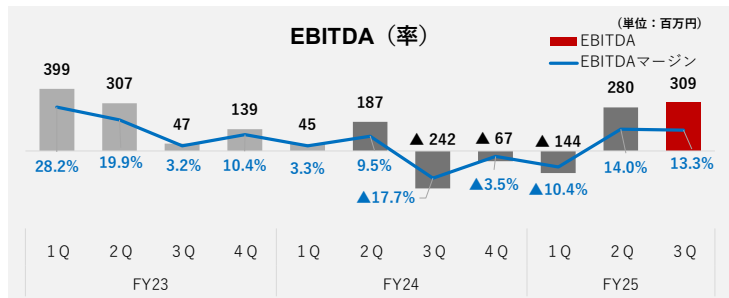
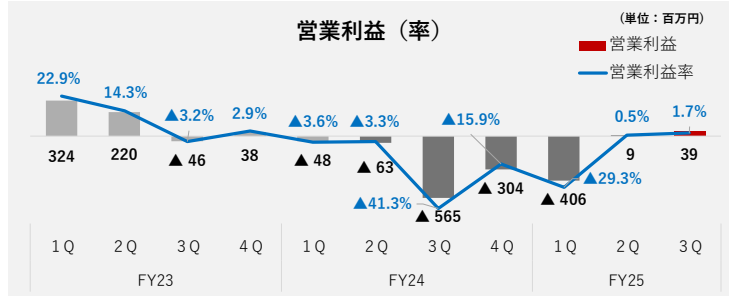
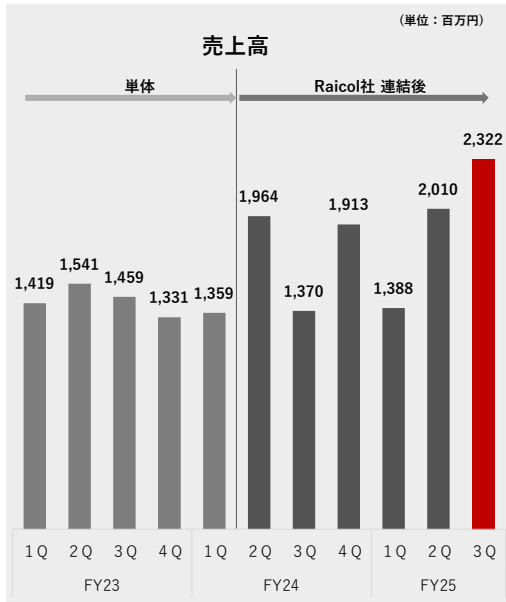
研究開発費及び設備投資の基本方針を見直すことで収益構造を強化してまいります。研究開発費については、優先順位を明確にし、絞り込みを行います。設備投資については、過去数年間にわたる大型の設備投資計画が一段落し、総額圧縮が可能になる見通しです。

来期以降の取り組みについては、2025年4月の通期決算発表時にご説明させていただきます。

株主の皆様には引き続き当社グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Appendix

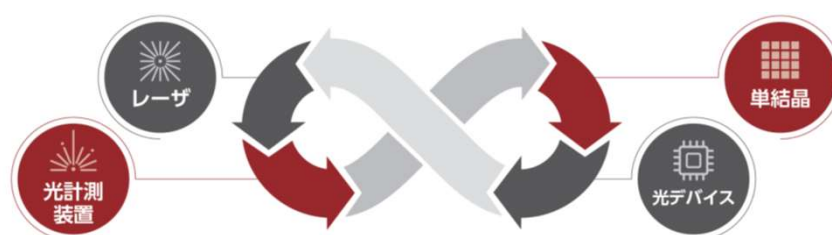
Appendix 財務トレンド



(注) 2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期および第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

当社は**単結晶・レーザ**の
グローバルニッチトップカンパニーを目指します

- 研究成果を社会に還元し、**キーマテリアル**を世界に向けて発信する
- 顧客へ**マテリアルソリューション**を提供し、社会の発展に貢献する
- 単結晶を核とした製品を開発し、**未来の市場機会**を創造し続ける





OXIDE

<https://www.opt-oxide.com>

ディスクレイマー

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の想定及び所信に基づく見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。

実際の業績に影響を与えるリスクや経済動向、業界需要などの不確定要因を含んでいます。

当社の見込みと実際の業績は異なる場合があります。ご了承ください。

本資料に記載された金額は表示単位未満を切り捨て処理、比率は表示単位未満を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。
2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期および第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。